

＜実践例 2＞ 第2学年 POWER-UP 8 賛成意見・反対意見を言おう
平成29年12月 (武田 美奈)

1. 目標

- (1) 課題について自分の考えを相手にわかりやすく伝えたり、相手の考えを意欲的に聞いたりしようとする。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) I agree. や I disagree. の表現や既習の英語表現を用いて、与えられたテーマについて、口頭で意見交換をしたり、自分の考えを書いたりすることができる。 (外国語表現の能力)
- (3) 比較級の表現を含んだ対話文や英文の内容を正確に聞き取ったり、読み取ったりすることができる。 (外国語理解の能力)
- (4) 比較級の表現の意味、用法を理解し、正しいスペリングや語順で英文を作ることができる。 (言語や文化についての知識・理解)

2. 指導にあたって

(1) 生徒観

英語科で育てる資質・能力「場面や相手に適する内容やその場に応じた表現方法としてよりふさわしいものを判断しながら言語運用する力」を高めるために、互いに自分の意見を伝え合う活動を重視してきた。本題材を学習するにあたって、“Which is better, summer or winter? Why?”という質問に対して2文以上の英文で答えるというレディネスを行ったところ、学級のほとんどの生徒が質問に対して理由を添えて答えることができ、場に応じた表現方法としてふさわしいものを判断しながら言語運用する力の高まりが見られた。しかし、理由を“Winter is better because I like snow.”のように自身の嗜好に関する内容で答えている生徒が半数以上であり、与えられたテーマに対して、相手にわかりやすく客観的な理由を含めて述べたり、書いたりする活動を重ねる必要がある。また、口頭で意見を交換する活動では、自分の意見を伝えることに関しては、多くの生徒ができていたが、伝えて終わってしまう場面や互いの意見を聞き取れず日本語で確認してしまう場面が見受けられた。よって、相手が伝えたい内容を正確に聞き出すための方策を身に付けさせる活動を通して、相手や目的を意識しながら、よりふさわしい英文や伝え方を選択し言語運用する力を高めていきたい。

前期の学習の振り返りの際にアンケートを行ったところ、学級の3分の2以上の生徒が後期の学習の中で考えを話したり書いたりする表現する力を伸ばしたいと感じており、表現活動へ意欲的に取り組んでいる。しかし、自分の考えを英語で表現する難しさを感じていたり、相手にわかりやすく伝えるためにはどのように文章を構成すれば良いかと悩んだりしている生徒も多い状況である。

(2) 教材観

本題材は、生徒が経験していることでどちらの立場にもなりやすいテーマを挙げて賛成か反対か意見を表現し合うという場面を設定している。将来的にディベートなどを行う際に必要な、ものごとをさまざまな側面から捉えたり、自分の意見を相手にわかりやすく理由を加えて論理的に伝えたりする下地を作ることがねらいである。

言語材料としては、自分の意見を書いたり述べたりする際に、比較表現、I think、because、助動詞、不定詞などの既習表現、相手の意見に対して応答する際に、I agree with.などの新出表現が扱われている。また、相手の意見に反論する際に、You think...but....や You said...but....などの表現も用いながら、自分の意見を伝えることに終始するのではなく、あいづちや聞き直しをしながら相手の話を傾聴し、相手の論点に着目しクリティカルに考え、よりロジカルな思考を育むことを期待する題材である。

(3) 指導観 ～目指す生徒の姿に近付けるために～

本題材での授業における、資質・能力を発揮している生徒の姿を、以下のように考えている。

テーマに対する自分の意見を相手にわかりやすく伝え、相手の意見の論点に対して適切な応答をしている。

英語科では、3年間を通して、「外国語を通じて、主体的に人や社会と関わりを持ち、場面や目的、相手に応じてより適切に伝え合う生徒」の育成を目指している。そのために、第2学年では、自分の考えに理由を添えながら筋道を立てて構成する力と、相手の意見に対して積極的に質問をしたり、自分の考えを伝えたりする力を育みたいと考えている。

①本題材で付けさせたい資質・能力

本題材では、“Which is better for junior high school students, a boxed lunch or a school lunch?”というテーマのもと、どちらかの立場で意見を書いて口頭で伝え、相手の意見に対して賛成か反対かを伝えるという統合的な学習活動を設定する。本題材を通して、「聞いたり読んだりしたことについてメモを取ったり、感想、賛否やその理由を書いたりするなどすること」「書くこと」エ)と「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること」「聞くこと」オ)に重点を置く。聞いたり読んだりしたことについて、賛否やその理由を書くためには、まずその論点を適切に聞き取ることが必要である。適切に聞き取るためには、メモを取ること、また相手の言ったことが一度で聞き取れなかった場合には聞き返すことなどの積極的な態度が求められる。相手が一番伝えたいことは何か、ということに着目し、相手の論点を適切に捉えることが、今後自分の意見を論理的に表現することにもつながると考える。論点を意識したやりとりは相手の考えを尊重すること、そして自分の考えを相手にさらに理解してもらうために、いかに自分の意見を再構築するか考える契機となっていく。そして、本題材を通して得た相手を意識したコミュニケーションの力は、特に全教科共通で重視して育む資質・能力「場に応じて判断基準を組み合わせる力」を伸ばすことにつながると考えられる。

生徒たちは将来的に、理由や根拠を持って自分の意見を伝えること、相手の意見に対して自分の考えや感想を伝える機会が増えていく。場面や状況を考えたり、他者を尊重したりしながら、相手にわかりやすく伝える、相手の考えを的確に受けとめ応答するという意識をもち、より適切なコミュニケーションを心がけて日常生活を送っていくことを期待している。

②留意点

学習を進めるにあたり、特に以下の点に留意する。

- ・相手の論点を適切に捉えるために、相手の考えや意見を聞いた後に、要点を単語でメモすることを意識させる。
- ・さまざまな側面からものごとを考え、視野や発想を広げる手助けとなるように、自分の意見を書く際に、議題の両面からのメリット、デメリットをブレインストーミングさせる。
- ・議題に対して、論理的な意見を書くことができるように、資料や仲間との交流を通して得た情報を整理したり、意見交換後に自分の英文を再構築したりする時間を設ける。
- ・自分の英語表現の幅を広げ、さらに論理的な意見を構築することができるように、毎時間の振り返りで自分が最も納得した意見について英語でまとめさせる。

★本題材での授業における資質・能力の発揮につながる姿とそのための手立て

3. 学習計画（5時間計画）

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手立て
1. Which is better, summer or winter?について意見を書く。 (1)	・議題に対して客観的な理由を含めながら自分の意見を書いている。 (表・言)	・ものごとを多面的にとらえることができるように、メリットとデメリットの両面を書かせる。
2. Which is better for foreign tourists, summer or winter?について意見を交換する。 (1)	★自分の意見を相手にわかりやすく伝えたり、相手の意見を聞き取ったりしている。 (意・表・理)	★相手の意見の論点が適切に聞き取れるように、相手の発話を You said.... で繰り返したり、相手の発話をメモしたりする。
3. Which is better, a boxed lunch or a school lunch?について意見を書く。 (1)	・議題に対する客観的な理由も含め自分の意見に対しての反論を予想したりしながら、自分の意見を書いたりしている。 (表・言)	・自分の意見のあいまいな点や説得性に欠ける点へ気付かせるために、反論を予想させグループで交流させる。
4. Which is better for Junior high school students, a boxed lunch or a school lunch?について意見を交換する。 (1) 本時4/5	★自分の意見を相手にわかりやすく伝えたり、相手の意見の論点に対して適切に応答したりしている。 (意・表・理)	★相手にわかりやすく意見を伝えるために、意見交換の前に自分の伝えたいことを書いて整理する時間を設ける。また、相手の論点に着目させるために、意見交換時に、要点をメモさせる。
5. Which is better for Junior high school students, a boxed lunch or a school lunch?について自分の意見を書く。 (1)	★意見交換の中で共有した英文なども用いながら、自分の意見を論理的に書いている。 (表)	★論理的な英文が書けるように、意見交換時に用いたワークシートを参考にさせ、互いの意見に対してアドバイスをさせる。

4. 本時の目標

テーマに対して自分の意見を相手にわかりやすく伝えたり、相手の意見の論点に対して適切に応答したりすることができる。

5. 過程

学習活動【学習形態】	目指す生徒の姿	教師の手立て
1. 前時までの学習内容を復習をする。【全体】	・既習事項を用いてペアと対話活動に取り組んでいる。	・生徒が話す意欲が高まるように世界の給食についての話題を与える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 課題 Which is better for Junior high school students, a boxed lunch or a school lunch? </div>		
2. テーマについて、自分が担当する立場の意見を書く。【個】	・既習事項を用いて理由も含めた意見を書いている。	・相手を納得させる意見にするために、前時で用いたメリット、デメリットも参考にさせて英文を書かせる。
3. 同じ立場を担当する仲間と意見を交換する。【個 → ペア】	・グループでの意見交換の時に相手を意識したやりとりができるようにペアで練習する。	・相手にわかりやすく意見を伝えることができるように、意見交換後に意見の言い方や内容について互いにコメントを言わせる。
4. グループで、賛成・反対の立場に分かれて意見を交換する。【グループ】	★自分の意見を相手にわかりやすく伝え、相手の意見に対して適切に応答している。	★相手の意見を適切に聞き取ったかを確認するために、相手の発話を You said... で繰り返したり、意見交換後に相手の意見を単語でメモさせたりする。
<p><重点を置いた英語科の資質・能力を発揮している姿> ★情報を整理して相手にわかりやすく意見を伝え、相手の意見の論点に対して適切な応答をしている。 例) 給食側は、I think a school lunch is better because it is warm. など、簡単な語を用いて意見を伝える。それに対して、弁当側は「We can eat warm <i>bento</i> at lunch time.」などと相手の意見に反論した後、自分の意見を言う。</p>		
5. グループで反論を考えて、相手を代えてもう一度意見を交換する。【グループ】	・それぞれの立場の論点を適切に捉えている。	・論点を意識したやりとりができるように、グループで協力して反論を考えてから意見を交換させる。
6. 本時の学びを振り返る。【個】	・英文表現が適切で、構成が論理的になってきたかを振り返っている。	・より論理的な意見が書けるようになるために、納得した仲間の意見などについてまとめさせる。

6. 評価とその方法

相手にわかりやすく意見を伝えたり、相手の論点を聞いて適切に応答したりできたかを学習活動3、4、5のグループ活動での様子や学習活動6のワークシートの記入内容から評価する。

7. 生徒の振り返りから

- 反論を言っても相手が意外なところから意見を言うので、互いの意見の内容が深まった。
- ディベートの流れに慣れてきたので、深い話し合いを活発にできたと思う。しかし、言いたい表現がわからず、言いたいことが言えない場面もあった。
- 今日は給食側で意見を述べた。「おかわりができる」と意見を述べたが、弁当側から「多く持ってくるができる」と反論をされ、自分の意見を言うことができなかった。自分の意見が尽きた時、どのような考えがあるか考えることが大変だった。
- 同じ立場を担当する仲間と意見を話し合うことで、相手が反論しにくい意見になったと思う。また、相手から反論されることで、深い内容の意見にすることができた。

8. 授業を終えて—事後研究会から—

実践を通しての成果(○)と課題(▲)は以下の通りである。

- 生徒にとって身近な題材や議論する必要性を感じる題材を選定することが大切だと改めて感じた。その際、生徒が身に付けてほしい文法事項や力を視野に入れながら、既習事項をベースにして生徒がもう一段ステップアップして取り組める題材を吟味する必要があると思った。
- 相手への反論を考えることが、相手の意見を正確に聞くこと、自分の意見を深めることにつながったと思う。反論することが目標ではなく、最終的に自分の考えを広げたり、自分の意見を深めたりすることが大切だと気付く生徒が多かった。
- 相手の発話を You said....で繰り返したり、相手の発話をメモしたりすることや、相手に伝わりやすい英語表現を考えることを通して、話し手側の相手意識が育ち、より質の高いコミュニケーションを目指す姿勢につながると感じた。
- 振り返りシートに、自分が英語で言えなかった表現や仲間の良い表現を記録することで、表現を増やすことにつながることができた。
- ▲ 「話す」ことに目標を定めた場合、errorを何度も繰り返してもそのままに改善できずに終わってしまった。対話活動の様子をVTRに収めたり、互いの対話をモニタリングしたりするなど、errorをそのままにしない手立ても考えていく必要があると感じた。
- ▲ メモをなぜ取るのか、教師のねらいを明らかにしながら、メモの取り方の指導も行っていきたい。
- ▲ 反論の際、筋道が立っているか、また、どのレベルや内容が反論としてふさわしいのか、教師の見とりが必要である。
- ▲ 自分の意見を伝えたいが、英語で表現できずにもどかしさを抱く生徒もいた。辞書やグループで確認する時間を効果的に用いながら、生徒の表現の幅を広げさせていきたい。
- ▲ 本授業では、相手の意見を聞いてメモする、反論する、紙を見ないで相手に伝えるなど、生徒が行う活動が煩雑になってしまった。その単元で目指す生徒の姿を明確にしながら、1時間毎の目標をより絞る必要があると思う。